

沖縄県水産海洋研究センターニュース(第4号)

2006年(平成18年)10月発行

本所 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
TEL:098-994-3593 FAX:098-994-8703
石垣支所 〒907-0453 沖縄県石垣市宇川平828番2号
TEL:0980-88-2255 FAX:0980-88-2114
ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/fish/>

アメリカでの海藻培養技術研修

アメリカでは海藻類を利用した環境浄化や、魚類との複合養殖を目指した研究が各地で行われています。その中でもコネチカット大学(大学のあるコネチカット州はニューヨーク市のやや北にあります)のヤリッシュ教授の研究室では、現地に生育するノリ類(*Phopyra daioica*, *P. leucosticte*)の栄養塩と生長の関係を中心に研究が進められており、現在私はそれら海藻類の培養技術や研究手法を勉強するため5月から半年間の留学をしています。

沖縄の海藻養殖品目であるモズクやクビレズタ(うみぶどう)の生育や分布は、海水中の栄養塩濃度が大きく関係しています。例えば、海水中の栄養塩が高すぎたり低すぎたりすると、モズクの発芽や生長に影響を及ぼすと考えられます。これら栄養塩の変化と海藻類の生長との関係を把握することは、養殖の安定生産のために重要な知見となります。そこで、コネチカット大学で培養技術や研究手法を学びながら、沖縄での海藻養殖に応用できるよう実験を進めています。



人口気象室



スタンフォード大学キャンパス

コネチカット大学は学生数28,000人、キャンパス数6箇所と州内でも規模の大きい大学です。海藻類の研究室は2つのキャンパスにあります。私の所属している研究室はスタンフォードという場所です。研究室にはアメリカ、ポルトガル、韓国とさまざまな国からの研究者が在籍しています。

7月にはアメリカ藻類学会がアラスカで開催され、そこではアメリカを始め、カナダ、ニュージーランド海藻研究者と交流する

機会がありました。日本の海藻研究とは異なる視点もあり興味深い内容でした。また、学会の雰囲気も日本とはだいぶ異なりカジュアルな様子です。日本人の私には最初違和感がありましたが、気軽に話しかけやすい良い雰囲気かもしれません。文化の違いにも驚かされました。

コネチカットに来てから3ヶ月が過ぎ、残りの滞在期間も半分を切りました。沖縄での海藻養殖技術の向上に貢献するため、出来るだけ多くの技術を吸収するよう日々の研究に取り組んでいます。

(原稿は8月末に書かれています)



アメリカ藻類学会のレセプション

(海洋資源・養殖班: 須藤裕介)



だけでなく、時には、彼らが生活している環境(養殖魚であれば生簀やその周辺)の状態も調べます。病気の原因は、体の中だけでなく、環境にも原因があることが多いからです。

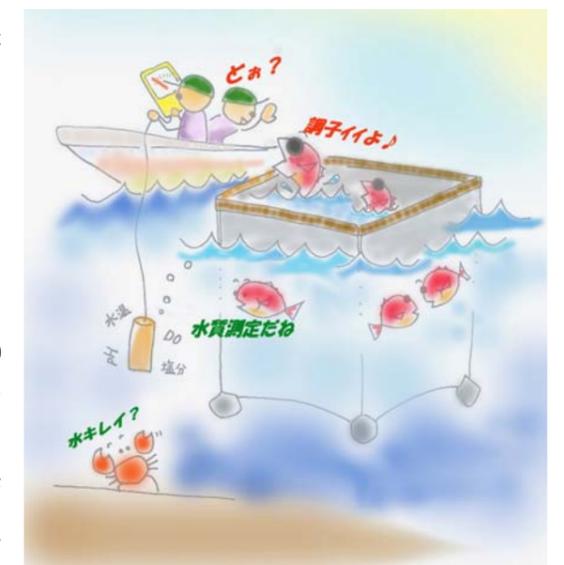
今回、私が受講したのは、全3回のうち第2回目。研修では、講師の先生方から、病気に関すること、病気の検査や診断、予防に関する事など、様々なことを教えていただきました。また、全国から集まった受講生の方々からは、各地域で現在問題となっている、または過去に問題となっていた病気のことや、その対処方法、苦労話など、様々な情報を交換することができました。特に、養殖の盛んな地域の方からは、長年の経験を踏まえて行っている対処法が聞けるなど、今後の病気対策のヒントとなりそうな情報も得られました。

これまでに、認定された魚類防疫士は、全国に約700名。沖縄県にも、十数名の魚類防疫士がいて、病気の診断や予防などの業務に携わっています。私も、魚類防疫士のひとりとしてきちんとした仕事ができるよう、研修で得た知識に、これからの経験と新たな知識を積み重ねていきたいと思っています。

『海のお医者さん』 ~ 魚類防疫士 ~

去る8月29日より、養殖衛生管理技術者養成コースの研修を受講してきました。これは魚類防疫士育成のために開催されている研修で、すべての研修を終了し、試験に合格した者は、魚類防疫士として認定されます。

魚類防疫士とは、簡単に言うと『海のお医者さん』です。魚やエビ・カニ、貝類、海藻など、海に生きるものの病気を診断します。魚や海藻が、人間と同じように『ここが痛いんだ』とか、『この辺が調子悪いんだ』とか、話してくれればそれほど苦労もしないのですが……。でも、彼らは話すことができません。そこで、魚類防疫士の出番です。話せない彼らに代わり、ありとあらゆる手段を使って、彼らの病気の原因を探ります。ウイルス、細菌、寄生虫など、様々なものが病気の原因となります。体をくまなく調べる



(海洋資源・養殖班: 金田真智子)